

【社会科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証・評価

○方位や日本の地形や外国の位置、東京都の特徴など基本的な知識を身に付けることができた。
 ○ICTを活用し教師が資料を提示したり、こどもが自分で調べたりすることができた。
 △資料を基に自分の考えを表現する問題について、おおむね達成率を越えているが、他の問題に対して正答率が低い。引き続き、自分の考えを表現できるように指導していく必要がある。

2 今年度の調査結果の分析と結果に基づく課題

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
調査結果の分析	知識・技能については、どの学年も目標値を上回っている。特に第4学年「工場の仕事」、第5学年「特色ある地域の様子」、第6学年「世界の中の国土」では、正答率が高く、十分理解できている。	思考・判断・表現については、どの学年も目標値を上回っている。特に、選択式の問題の正答率が高くなっている。しかし、記述式の問題の正答率が他の問題に比べ低い。そのため、引き続き情報を適切に読み取り、大事な言葉や文を使いながら自分の言葉にして表現する力を高めていく必要がある。	主体的に学習に取り組む態度は、どの学年も目標値を上回っている。社会の一員としての意識をさらに高め、公民的資質の向上に努めていきたい。
課題	・昨年度同様にどの観点でも高い正答率になっているが、記述式の問題について他の問題より正答率が低い傾向が見られる。問題を解決するために、資料を読み取り、大事な言葉や文を使って表現する学習を続けていく必要がある。そのためにも、思考ツールの活用などを通して自分の考えを深められるようにしていく必要がある。		

3 授業の具体的な改善策

教科目標	学習指導要領の教科の目標 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり、解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。 (1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことを選択・判断したことを適切に表現する力を養う。 (3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。
全体	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 ・社会的事象から学習問題を見だし、その解決への見通しをもって取り組めるように学習計画を立てる。それには、学習対象に関する関心を高めるために児童に提示する資料を精選する。また、問題意識をもつようにさせるとともに、予想したり、学習計画を立てたりして、追究・解決方法を検討することと、学習したことから新たな問題を見いだしたりすること、さらに学んだことを基に自らの生活を見つめたり社会生活に活かしたりすることができるようにする。 ・学習過程を通じた様々な場面で児童相互の話し合いや討論などを充実させる。また、実社会で働く人々から話を聞く活動を行うことで、児童に様々な視点を身に付けさせ、社会的事象の特色や意味などを多角的に考えることができるようにする。
学年段階別改善策	
中学年	・資料を読み取る力を高めるために、資料を読み取る際の視点を提示する。(最大値・最小値、上がる・下がるなど) また、地図記号などの基本的な知識の定着を図るため、フォローアップシートなどを活用する(知識・技能) ・本時の課題について調べて分かったことを基に自分の言葉でまとめさせる活動を取り入れる。その際には、どのような視点で考えるとよいか提示し、どの児童も自分の考えをもてるようにする。また、難しい児童にはキーワードを示し、表現できるように支援していく。(思考・判断・表現) ・地域教材を活用し、必要に応じて見学・体験的な活動を取り入れ、児童が区や都の様子に関心をもち、主体的に調べることができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度)
高学年	・社会的事象を表す語句などの定着を図るために、フォローアップシートなどの問題を活用する。また、各単元で資料を活用し、情報を集める活動を取り入れる。資料を読み取る際の視点を提示したり、資料を比べて調べる活動を多く取り入れたりする。(知識・技能) ・本時の課題について調べて分かったことを自分の言葉でまとめる活動を取り入れる。その際には、どのような視点で考えるとよいか提示し、どの児童も自分の考えをもてるようにする。また、自分の考えを整理するためにYチャートやピラミッドチャートなどの思考ツールも活用する。(思考・判断・表現) ・自分から離れた社会的事象をより身近に感じさせるために、適宜ゲストティーチャーや動画(ICT機器)などを活用し、児童が社会的事象を自分ごととして学習を進められるようにする。(主体的に学習に取り組む態度)